

4. 学校における子ども読書活動の推進

子どもと保護者への取り組み

現在学校では、教科学習の中での読書や子どもの関心に合わせた本の紹介や読み聞かせなど、さまざまな方法で子どもが本に親しむ取り組みが行われています。子どもが主体的な読書を行うことができるよう、さらに取り組みを進めていきます。

対象				事業	関係部局・団体	区分	取り組みの内容
乳幼児 小中学生	15才以上	大人	子どもの読書活動への取り組み	学校指導課 市立図書館 PTA連合会 おはなしボランティアグループ	新規	子どもが主体となって読書の豊かさ・楽しさを体験し、伝え合う催しを学校・関連機関・団体が連携して行う。	
			読書教育の推進	小・中学校 学校指導課	継続	授業をはじめとした学校教育活動の中に読書を位置づけて取り組みを進める。	
			読書教育の推進	小・中学校 学校指導課	継続	読みたい本を自由に読む読書活動を教育活動の一環として位置づけ、子どもの主体的な読書につながるよう取り組みを行う。	
			読書活動の推進	小・中学校	継続	学校での読書会など、自分と友だちとの共感や感じ方の違いを体感し、本への興味が持てるよう機会をつくる。	
			「おはなし指導者派遣事業」	市立図書館 豊中おはなしの会	継続	豊中おはなしの会の協力を得て、日ごろ図書館を利用しにくい子どもたちに出前のおはなし会を行う。 〔第2章3保育所(園)幼稚園 5障害のある子どもや外国人の子ども 6市立図書館にも掲載しています。〕	
			保護者への取り組み	小・中学校 学校指導課 市立図書館	新規	保護者に対して、子どもの読書の大切さを伝える。	

子どもの本や読書に関する情報提供

学校ではたよりなどによる子どもや保護者への情報提供が行われています。今後子どもの読書実態や、学校における取り組みについて、家庭・地域に積極的に伝え、子どもの読書に取り組む協働の輪を広げます。

◆全体的な取り組み(4ページ)をご参照ください。

対象				事業	関係部局・団体	区分	取り組みの内容
乳幼児 小中学生	15才以上	大人	情報交流	学校指導課 小・中学校 市立図書館 おはなしボランティアグループ	継続	地域で学校や市立図書館、読み聞かせボランティアが子どもや読書に関する情報を共有し、子どもの読書活動を推進する。	

読書環境の整備

平成17年度に学校図書館司書が市内の小学校・中学校に全校配置となりました。さらに学校図書館が機能を発揮するために資料を充実し、環境整備を進めます。

対象				事業	関係部局・団体	区分	取り組みの内容
乳幼児	小中学生	15才以上	大人	図書費の確保	○教育施設課 企画総務課	継続	豊かな読書活動と充実した学びを保障するため、全国学校図書館図書費などをふまえ、図書費の確保等、資料整備を進める。
				図書館の改修	教育施設課	継続	学校図書館を学校の中の魅力ある場として、財政状況や校舎の改築・改修の時期等を総合的に考え、整備を進める。
				蔵書管理システムの研究	○学校指導課 市立図書館 教育センター	継続	学校及び市立図書館の蔵書を効果的に活用するため、関係機関が連携した研究を進める。
				学校図書館資料運搬システムの効果的運用	○学校指導課 市立図書館	継続	学校図書館・市立図書館間における資料運搬システムの効果的な運用に向けて研究を進める。

子ども読書活動におけるネットワークづくりと情報交流の推進

市立図書館との懇談会が定期的に行われています。子どもたちの読書活動を充実するために、市立図書館のほか、ボランティアや保護者との情報交流を行い、連携を進めます。

◆全体的な取り組み(4ページ)をご参照ください。

対象				事業	関係部局・団体	区分	取り組みの内容
乳幼児	小中学生	15才以上	大人	学校・市立図書館連絡会	○学校指導課 ○市立図書館 小・中学校	継続	子どもの読書活動と学習活動の充実に向け、学校・市立図書館間で資料活用状況等に関する交流(情報交換や研修)の場を定期的に設ける。 〔第2章6市立図書館にも掲載しています。〕

子ども読書活動ボランティアや市民活動団体への支援の充実

学校で読み聞かせを行うボランティアの活動が活発に取り組まれています。子どもの読書への協働の輪をさらに広げるために、読み聞かせボランティアに講座や学習の機会を設けるなどの支援を継続して行います。また、子ども自身が読み聞かせボランティアとして読書活動に関わる取り組みを支援します。

対象				事業	関係部局・団体	区分	取り組みの内容
乳幼児	小中学生	15才以上	大人	中学生・高校生による読み聞かせボランティアへの指導・支援	○市立図書館 おはなしボランティアグループ 小・中学校 学校指導課	拡充	中学生・高校生による読み聞かせボランティアに絵本の選び方や読み聞かせについての指導を行い、活動場所を提供するなどの支援を行う。 〔第2章1(2)地域 4保育所(園)幼稚園 6市立図書館をご参照ください。〕

対象				事業	関係部局・団体	区分	取り組みの内容
乳幼児	小中学生	15才以上	大人	「学校における読み聞かせボランティアのバックアップ講座」	市立図書館	継続	学校で読み聞かせを行っているボランティアに対し、講座を実施するなど継続的な支援を行う。

子どもに関わる大人への啓発と研修

学校図書館の効果的な活用によって教職員の創意工夫ある授業や子どもの主体的な学習が広がります。そのため、教職員に対して研修が取り組まれています。今後さらに教職員の研修を充実し、学校をこえた相互交流・情報交換を行いながら、すべての学校で図書館教育を支援する取り組みを進めます。

対象				事業	関係部局・団体	区分	取り組みの内容
乳幼児	小中学生	15才以上	大人	管理職研修	学校指導課	継続	「豊中市子ども読書活動推進計画」を周知し、教育課程上における学校図書館活用の必要性・有効性に関して研修を行う。
				教職員への啓発・研修	学校指導課 市立図書館	拡充	「豊中市子ども読書活動推進計画」の内容について教職員に周知する。また、夏休みを利用して、教職員向けに図書館見学や図書館・図書館資料の効果的な活用等の研修を行う。 〔第2章6市立図書館をご参照ください。〕
				司書教諭(学校図書館教育担当者)研修	学校指導課	継続	学習指導方法の工夫改善と学校図書館の効果的な活用に関する研修を行い、相互交流・情報交換の場を持つ。
				学校司書研修	学校指導課	継続	学校教育における効果的な読書並びに学習活動への支援に関する研修を行う。

学校での読書と学び

豊中市内の小中学校では、教諭と学校司書が連携し、子どもたちの様子や学習にそって、読書活動や調べる学習を行っています。

例えばM小学校の場合。

国語で「かさこじぞう」を学んだ2年生は、担任の先生や学校司書による昔話の語りを楽しんだ後、自分たちで「語り」に挑戦しました。まず、学校図書館に集められたたくさんの昔話を読み、ひとりひとりが好きな話を選びます。そして、「言葉(擬音)が面白いから好き」など思ったことを伝え合い、グループごとに語る話を決めました。練習を重ねてむかえた参観日、子どもたちは真剣な表情で、場面の一つひとつが思い浮かぶよう表現にも工夫しながら語り、また、お互いの語りを集中して聞きあっていました。このように、読書活動は「伝えること」「聞くこと」へもつながっていくようです。この学習後、さらに昔話を読み続けていた子どもたちもいて、学習を通して読書の興味の幅が広がった様子がうかがえました。

社会科や体験学習で「産業」について学んだ5年生は、さらに資料で自分の疑問について調べる学習をしました。「なんか、調べるのが面白くなってきたわぁ」「養殖と栽培漁業って、ちがうんや！」発見したことを、思わず友だちに伝えあう姿も…。このように、調べながら「知る楽しさ」を体験することに加え、子どもたちは統計資料の読み取り方、複数の情報を比較すること、出典を明記することなど「情報を読み取り、活用する方法」もあわせて学び、身につけています。

休み時間も「テレビで見た西遊記の話!」「先生が教室で読んでくれた絵本ある?」「星の本見たい! さっき理科で習ったから」と、子どもたちは「もっと知りたい・読みたい」気持ちをふくらませて学校図書館へやってきます。ひとりひとりの主体的な「読書の楽しさ」を大切にしつつ、すぐに本を手渡せるよう学校図書館が機能することで、子どもたちの「自ら学ぶ」力と意欲が育まれていきます



3年生の総合学習で「花だんに植える植物調べ」。調べる前に学校図書館で図鑑等の「目次と索引」の使い方オリエンテーションを実施している様子。